

実践のまとめ（第2学年 道徳科）

授業日 令和4年10月13日第5校時
弥彦村立弥彦中学校 教諭 大山 勇生

1 研究テーマ

他者との対話を通して、より良い生き方を見付ける生徒の育成

2 研究テーマについて

(1) 研究テーマ設定の意図

学習指導要領における道徳科の目標によれば、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため」には、「自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習」を進めていくことが求められている。つまり、生徒がこれまでの経験や自身の価値観だけで物事を考えるのではなく、他者との対話から様々な考えや価値観に触れ、物事を多面的・多角的に考えることがより良く生きることに繋がっていくと考えることができる。

当校の生徒は、気が優しく素直な生徒が多く、与えられた課題や問題には一生懸命に取り組もうとする。一方で、話し合い活動等になると、他者の考えに質問したり、批評したりするなど、議論することを苦手としている生徒が多い。これまでの道徳の授業を振り返っても、班での話し合い活動では、それぞれが自身の考えを伝えるだけで終わってしまうということが多く見受けられてきた。自身の経験や価値観だけで物事を判断するのではなく、他者との対話から様々な価値観に触れ、物事を多面的・多角的に捉え、自身の生き方をより良いものにしていける力を育みたいと願い、上記のようなテーマを設定した。

(2) 研究テーマに迫るために

① 思考ツールの活用

対話を行うためには、自分の考えをもつことが大切である。しかし、「主人公はどのような気持ちで・・・」と問うだけでは、考えていることや伝えたいことを十分に表現できない生徒が多い。思考ツールは、そのワークシートに沿って書き込むだけで、生徒が自ずと理由付けや様々な視点で物事を考えることができる。また、心情円などは自身の気持ちを視覚的に表すことができる。これにより、話し合い活動の際は、自他の考えの共通点や相違点を見付けたり、級友と理由を比較しながら話し合ったりすることができるなど対話が深まりやすいと考えられる。教材の内容や生徒の実態に合わせて活用していきたい。

② 問題解決的な学習

他者との対話を深めるためには、「自分の考えを伝えたい」「他の人の考えを聞いてみたい」と思える問いかどうかに依るところが大きい。そこで、授業中の問いは以下のような問題¹を取り上げ、問題解決的な学習を取り入れたい。

- ・道徳的諸価値が実現されていないことに起因する問題
- ・道徳的諸価値について理解が不十分又は誤解していることから生じる問題
- ・道徳的諸価値のことは理解しているが、それを実現しようとする自分とそうできない自分との葛藤から生じる問題
- ・複数の道徳的価値の間の対立から生じる問題

(3) 研究テーマにかかわる評価

- ・話し合い活動において、生徒が問いに対して多面的・多角的に考え議論している。
- ・生徒の授業の振り返りの記述内容から、新たな視点に気付いたり、自らの生き方について考えを深めたりしている。

3 指導計画

(1) 主題名

より良い「友情」を築くために、なりたい自分（内容項目B-8 友情、信頼）

(2) 教材名

「松葉づえ」（中学道徳2 きみが いちばん ひかるとき 光村図書）

(3) 主題設定の理由

① ねらいとする道徳的価値

友情は、相互に変わらない信頼があって成り立つものであり、そこには相手に対する敬愛の念がある。相手の人間的な成長と幸せを願い、互いに励まし合い、高め合い、協力を惜しまないという平等で対等な関係でもある。友情は、人間にとってその人生を豊かにするかけがえのないものであり、友情によって喜びは何倍にもなり、悲しみや苦しみは分かち合うことができる。

指導に当たっては、友情は互いの個性を認め、相手への尊敬と幸せを願う思いが大切であることを理解させたい。そして、自分から友情を築くための共通の課題について考えを深めたり、互いの正しい理解によってより豊かな人間関係が築かれることに気付いたりするための工夫を行っていききたい。

② 教材と生徒

本教材は、松葉杖を突いている転校生に親切にしていたクラスメートたちが、次第に態度を変えてしまうというストーリーである。「僕」やクラスメートたちの姿から、「友情」とは何かについて考えることができるような教材である。

本学級（男子17名、女子16名）の生徒は、ほぼ全員が小学校の頃より同じメンバーで学校生活を過ごしてきた。人間関係は良好で、分からないことを教えてあげたり、一緒に活動しようとしたり、仲間に対して親切に接しようとする生徒は多い。しかしながら、自分が傷つくことを避けたり、相手との関係が悪化したりしないように同調する姿もあり、相手の人間的な成長を願うものばかりではない。さらには、自分の行動に対して、相手から思ったような見返りがないと不満を抱くといった生徒も一部見受けられる。

本教材を通して、生徒が登場人物を自分たちの友達との関わり方を重ね合わせながら、「友情」とは相手の人間的な成長と幸せを願ったもの、平等で対等な関係であることに気付く、これからの友達とのより良い関わり方について考えさせていきたい。

(4) 他の教科、領域との関連について

	教科・領域	道徳科	教育活動
1 学期	国語「辞書に描かれたもの」(5月) 音楽「曲にふさわしい発声で 歌おう」(5月)		地区大会激励会(6月)

2 学 期	国語「走れメロス」(11月)	「松葉づえ」(10月) B-8 友情、信頼	新人大会激励会(9月)
3 学 期		「泣いた赤鬼」(2月) B-8 友情、信頼	

(5) 本時のねらい

松葉杖を突いている転校生に親切にしていたクラスメートたちが、次第に態度を変えてしまう姿を通して、心から信頼し、助け合える友達関係を築いていこうとする態度を育てる。

(6) 本時の展開(令和4年10月11日実施)

	□学習活動	○主な発問 ・予想される児童(生徒)の反応	◇留意点
導 入	<input type="checkbox"/> 事前アンケートの結果を確認 <input type="checkbox"/> 学習テーマの確認 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <input type="checkbox"/>学習テーマ より良い「友情」を築くために、大切なことは何だろう。 </div>	<input type="checkbox"/> 2択クイズ「友達として相応しい行動はどちらか。」	<input type="checkbox"/> 大型電子黒板に映し出し、学習意欲を高める。
展 開	<input type="checkbox"/> 「松葉づえ」を読む <input type="checkbox"/> 今井さん、上田さん、僕の3人と伊藤君の大野君への関わり方を対比しながら確認 <input type="checkbox"/> 自分の考えをタブレットとワークシートに記入 <input type="checkbox"/> 考えの交流 ・考えを聞いてみたい人、3人以上と交流。	<input type="checkbox"/> 今井さん、上田さん、僕の3人と伊藤君の関わり方は、どちらが友達として良い関わり方ですか。 〈3人〉 ・親切にしている。 ・協力している。 ・伊藤君は冷たすぎる。 〈伊藤君〉 ・伊藤君の考えに賛成。 ・大野君は助けて欲しいと思っていないかも。	<input type="checkbox"/> 挿絵や掲示物を使いながらスピーディーに確認する。 <input type="checkbox"/> 心の数直線 ⁱⁱ に考えを入力する。理由を、ワークシートに記入する。 <input type="checkbox"/> どちらかに考え方が偏った場合の追発問を用意しておく。
	<input type="checkbox"/> 問いに対して発言	<input type="checkbox"/> なぜ、みんなは大野君に手を貸さなくなったのでしょうか。 ・助けがなくても、いろいろなことができるようになったから。 ・何でもできる大野君のことを、かわいそうだと思えなくなったから。	<input type="checkbox"/> 追「本当に大野君に助けはいらぬのか」、「助けたいと思った気持ちは偽りだったのか。」

	<input type="checkbox"/> 自分の考えをワークシートに記入 <input type="checkbox"/> 考えの発表 <input type="checkbox"/> 自分の考えをワークシートに記入 <input type="checkbox"/> 考えの発表	○伊藤君の言葉が僕の心に大きく響いたとき、僕はどんなことを考えていただろう。 ・「僕」は、大野君を勝手にかわいそうだと思っていて、一方的な親切だった。 ・大野君のためではなく、自分の優越感のために協力していたことに気付いたから。 ◎本当の友達の姿とは、どのような姿のことをいうと思いますか。	◇大野君を「友達」として対等に見ていなかった 「僕」の姿に気付かせる。
終末	<input type="checkbox"/> 振り返りを記入 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 振り返りの視点 ①より良い「友情」を築くために、大切なことは何だと思いますか。 ② ①のために、今後どのように行動していきたいか。 </div>		

(7) 本時の評価

① 評価の視点

- ・登場人物の姿やクラスでの話し合いを通して、友達を思いやり、協力し合いながら豊かな関係を築いていくことについて、考えを広げようとしているか。
- ・教材に描かれた友情と自分の持つ友情観を照らし合わせるなどして、友情についての自分の考え方を広げ、深めようとしているか。

② 評価の方法

- ・話し合いの様子や授業内での発言の内容から見取る。
- ・事前アンケートと振り返りの記述内容を比較する。

(8) 板書計画

◎本当の「友達」の姿とは、どのような姿のことをいうと思いますか。

挿絵

挿絵

伊藤君

⇒

大野君

⇐

今井さん
上田さん
「僕」

テーマより良い「友情」を築くために、大切なことは何だろうか。

○伊藤君の言葉が「僕」に響いた理由

- ・大野君を勝手にかわいそうだと思っただけで、一方的な親切だったから。
- ・自分の優越感のために協力していたことに気付いたから。

○なぜ、大野君に手を貸さなくなったか。

- ・助けがなくても、色々なことができるようになったから。
- ・何でもできる大野君への嫉妬。

・気乗りがしない。

「そこまで先回りをしなくても良いんじゃないか。」

・教科書や道具を持ってあげよう。

・階段では手を貸してあげよう。

・ノートを見せてあげよう。

・将棋部に誘ってみよう。

「もう友達だもんね。」

6 実践を振り返って

(1) 授業の実際（指導の実際）

導入では、事前アンケートの結果を紹介した。「友情を築くために、大切なことは何ですか。」という問いには、「コミュニケーション」、「思いやり」、「困っていたら助ける」などの回答が多く見られた。また、友達としてより良い行動を選ぶ2択クイズを実施し、学習テーマへの意識付けを行った。特に、「友達が悪いことをしてしまったら、その友達を庇うか、叱るか」という問いは、クラスの考えが半分に分かれており、本当の友達の姿について考える良いきっかけとなった。

展開の前半では、教材本文中の人物の行動に注目し、「どちらが友達として良い関わり方か。」の問いについて考えた。生徒は心の数直線（図1）を用いることで、自分の考えを吟味しながら、視覚的に表現した。それを活用した話し合い活動の様子は、(2)、(3)にて詳しく述べる。その後、考えをクラス全体で共有した。友達との関わり方について様々な視点から意見が出され、生徒は多面的・多角的に考えるきっかけになったと感じている。

後半では、「本当の友達の姿とは、どのような姿か。」と発問し、教材本文中の人物の行動や級友の考えを通して、自分の価値観を再構築する姿が見られた。



〔図1. 心の数直線〕

(2) 研究テーマに関わって

① 「話し合い活動において、多面的・多角的に考え議論していたか」について

心の数直線を活用することで、活発な話し合いの様子が見られた。例えば、生徒は自分のつくった心の数直線について、自身のこれまでの体験や自分と登場人物の心情を重ね合わせながら理由を述べたり、登場人物の両者の視点に立って意見を述べたりする姿が見られた。また、他者の話を聞くときは、最後まで相手の話をしっかりと聞き、自分と異なる着眼点について質問したり、同じ着眼点からの異なる判断に対して意見を交わしたりする姿があった。一方で、教室内を自由に立ち歩いて話し合いを行った結果、普段から仲の良い特定の人との交流で終わってしまった生徒もいたため、話し合い活動を設定するときには、「自分と考えの似ている人2名、異なる人2名の合計4名」などの条件を加えるといった工夫が必要であると感じた。

② 「新たな視点に気付いたり、自らの生き方について考えを深めたりしたか」について

授業の終末における生徒の振り返りの記述内容は、以下の通りである。

生徒Aは、授業中の他の生徒の発言から、友達の在り方についてこれまで思いつかなかった考えに気付くことができた。

私は 最後のほうまで「最後までどうせなら、て言うのが大切だと思いました。
「友達」という存在を改めて考えることができたのでよかったです。

〔生徒Aの振り返り記述〕

生徒Bは、事前アンケートへの回答で「友達とは、いつでも助け合える存在である。」と答えていた生徒である。授業を通して、より良い友情を築くためには助け合うことだけではなく、「相手のためになる」行動が大切だということに気付くことができた。

困、それなら助け合うことが一番大切なのではないかと
思った。でも助けすぎると相手のためにならないこと
もあるだろうから、「相手のためになる」ような行動を
できるようにしてみたい。

〔生徒Bの振り返り記述〕

生徒Cは、これまでの自身の友達との関わり方で悩んだ経験があった生徒だが、授業を通して、より良い友情を築いていくために大切なことに気づき、今後に生かそうと考えることができた。

① 相手のためを思い行動した。どんなことでも相手のため
にならないなと思ったら 言えるようにしたい
② 友達を作ることが二かたなので学ぶことがたくさんありました。
本当の友達を作れるようにしたいです。

〔生徒Cの振り返り記述〕

他にも多くの生徒の記述内容から、道徳的価値の変容や自身の生き方をより良いものにしていきたいという道徳的実践意欲の高まりを見取ることができた。

(3) 今後の課題

① 話し合い活動における指導の工夫

上述したように、話し合い活動では特定の人物との交流に終始してしまった人がいたことが課題としてあげられる。授業後の協議会では、1分ごとにペアを交代し様々な人と交流する、心の数直線を各自のタブレットで閲覧できるように共有をかけておき、話し合い活動に入る前に考えを聞いてみたい人を決めておくなどの改善策を学ぶことができた。別日の授業で実践したところ、普段から仲の良い人とだけでなく、様々な人と意見交流をする姿が見られた。話し合い活動の際は、ICT機器が有効に働いた成果もあったため、ICTを活用しながら、生徒が多様な価値観に触れることのできる機会を設定していきたい。

② 中心発問で生徒の考えをより深めるために

今回の授業では、中心発問について考える場面に多くの時間をかけることができなかつた。中心発問に至るまでに、どの部分で時間短縮を図るかが今後の課題である。例えば、教材本文を事前に読ませておくことや、展開場面の前半は挿絵やICT機器を利用することで時間短縮につながる事が考えられる。

また、中心発問をどのように生徒に投げかけるかについても熟考していきたい。今回の中心発問は「本当の友達の姿とは、どのような姿か」とし、価値の本質を直接問うように設定した。他にも、「伊藤君の言葉が僕の心に大きく響いたとき、僕はどんなことに気付いたのだろうか」など、教材中で最も心を動かされる場面での言語化できない価値の本質について取り上げることもできる。中心発問について考えた後には、「僕は犬野君にとって良い友達ではなかったのか」などと問い返し、生徒の考えを揺さぶり、新たな気づきを促したり、価値を多面的・多角的に考えさせたりする補助発問も効果的だと考えられる。

参考文献

ⁱ 文部科学省.『「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について(報告)』.(2016年7月22日)

ⁱⁱ 熊本市教育センター デジタル教材「心の数直線」

http://www.kumamoto-kmm.ed.jp/kyouzai/web/Heart-meter3/Heart-meter3_manual.pdf